



平成23年度 北中物語第18号

平成23年9月15日

文責:校長 中村 裕子

校長mail yuko-nakamura@staff.gsn.ed.jp

褒め言葉はさりげなく …今は、そのチャンス

長所は無限に伸びる、伸ばすのは大人・・・

どの子どもにも長所があります。そして短所があります。(大人も同じです)しかし、大人が子どもに対して気になるのは、短所ばかり、そしてそれを何とか直そうと多くなる小言・・・。それは子どもを思う親心で仕方のないことだと、自分を振り返ってみて思うこともあります。しかし、最近、短所を直すことには限界があるものだと思うようになりました。(自分の経験上、どうにもうまくいかないからです) その代わりに、長所を伸ばすことは無限だとも思うようになりました。特に子どもは、無限です。それを立証している子どもたちが北中にはたくさんいます。一つの長所を認められたことで、自信を持ち、どんどん伸びてきている子どもがいます。それをお感じになっている保護者の方も多いかと思います。(実際、皆さまがお感じになっている以上に、子どもたちは、学校でその姿を顕著にしています。)

このことは広く世間に目を向けてみても言えることで、今、活躍している人々は、短所を直したのではなく、長所を伸ばした人たちなのだと思います。



「がんばったね、がんばってるね」が自信を生む

体育祭や中体連に向けての練習が真っ盛り、おそらくどのご家庭でも、「がんばって」と送り出してくれているのでしょう。そして、子どもたちはその励ましを受けて、残暑の中、よくやっています。では、毎日よくやっている子どもたちに、次はどんな言葉をかけることが大切になってくるのでしょうか。それは、がんばっていることを認める声かけです。かつて、教諭として北中に勤務していた時に次のような作文を書いた生徒がいました。(この生徒、現在では北中の保護者さんですよ(〇))

私は、「がんばれ」という言葉が嫌いです。それはもう十分がんばっているからです。がんばっているのに「がんばれ」と言われるのがとても嫌です。でも、入試が終わったとき「がんばったね」とそっと耳元でささやいてくれた母の言葉は心からうれしかったです。結果はともかく、がんばった自分を認めてくれた一言で、高校でも努力していこうと心から思っています。

今晚、何気なく、「汚れた体操服はがんばっている証拠だね」と、毎日の練習へのがんばりを褒めてやってください。その温かい言葉かけがその子のよい点を伸ばし、自信を生み、弱点をカバーして、力をつけていくにちがいありません。(真っ黒な体操服で帰ってくること、その汚れがその子の今日のがんばりなのです(-))

生徒のみなさんへ



(ナデシコ:彼女たちにあやかる)

真に輝くべき3年生に

現在、みなさんの共通の関心事が「進路」でしょう。ただ、共通する関心事でも大きく違うのが意識や行動です。早くも照準を定め、受験勉強のペースができてきている人、何かと理由をつけて進路に正面から向かわないでいる人…等々、その差は大きいものがあります。そこで、ここでは、何かと理由をつけて進路に向かわないでいる人に伝えたいことがあります。それは、「〇〇が終わってからやるとか、〇〇があるからできない等と言っている人で、〇〇が終わったからといってやった人はいない」ことです。端的に言うと、やらない理由は、起こさなくてはならない行動から逃げているだけということです。この「逃げていること」に、実はみなさん自身が気づいていると思います。しかし、それを認めたくない…。しかし、人間は自分の心にはうそをつけません。勉強してない自分に悔しさをもっているはずです。

受験生という立場にいるみなさんにお伝えしたいのは、「後回しにしていることが今の自分にいちばん大切なのだ」ということです。私の辛い経験からも、『苦手であればやりたくない』と思っていることが、そのときの自分に最も大切なことだったのです。言い換えると、私は、当時、夢や希望を実現するための最大の課題を「後回し」にしていたのです。

私は、みなさんを責めてこれを伝えているのではありません。大人でも誰でもそうだ、ということを知った上で、「後回しにしたいこと」を最優先にして実行している人は、例外なく「夢や希望を現実にしつつある」ということを知りたいのです。

やりたくないことは後回し、

しかしこの後回しにしていることが

今の自分にとっては**いちばん** (たいせつなこと) …



体験して学ぶべき1年生・2年生に

夏の市中体連大会からちょうど2ヶ月、市中体連秋季大会(新人戦)がやってきました。たくましくなった顔や体つきに、2ヶ月間の努力が表れています。毎朝、毎晩、休みの日も、本当によく頑張っています。時に辛いこともあるでしょう、休みたくなることもあるでしょう、しかし、ほとんどのみなさんが、辛さに打ち克ち、いよいよ秋季大会に挑むわけです。ここで、秋季大会に臨むにあたって、激励の心を込めてお伝えたいことがあります。それは、「全てが通過点」ということです。ただ、この「通過点」ということを負けた際の言い訳にはなりません。みなさんのねらいとするところは、「来年の夏・再来年の夏」です。しかし、来年・再来年だからといって、今、努力をしなくていいのではありません。「昨日があったから今日がある。今日があるから明日がある」というように、今日という日は、来年・再来年に通じているということを改めて認識して、努力を続けてください。この秋季大会はそういう意味で、極めて重要な大会です。厳しい冬の練習に希望をもって臨めるかどうか決まる大会です。どうぞ、大会を通して、さらにたくましくなって帰ってきてください。(体験とは心がけ次第で人を大きく成長させます。中体連大会をよい体験…)



負けて学ぶこともあるけれど、
勝って学ぶことの方が大きいに決まってる